

<p>明治七年 明治七年 一月二十八日 一月二十八日 ぼくたちの わたしたちの 大多喜小学校が 創立された 創立された</p>	<p>ソロバン 男の先生は黒のつめえり 女の先生は はおりはかま 校長先生は馬に乗って学校へ それは明治の大多喜小学校の姿 大正六年 第五校舎の落成 すてきな校舎</p>	<p>防空頭巾 この苦しい時代を ぼくたちの わたしたちの おとうさん おかあさんは 生きぬいてきた 国破れて 山河あり 城春にして 草木深し 時に感じては 花にも涙をそそぎ 別れをうらみては 鳥にも心をおどろかす</p>
<p>明治維新の 維新の先覚者達によって 学制が発布された それは 明治五年 日本の教育の 夜明けであった それから二年 夷隅の中心 城下町 大多喜に 大多喜小学校が誕生した</p>	<p>それは今も残っている 第四校舎 大正十二年九月一日 午前十一時五十八分 おそろしい関東大震災 ゆれ動く大地 くずれ落ちる建物 家を失い おびえる人々 幸いに災害の少なかった</p>	<p>終戦 昭和二十年八月十五日 ついに終戦の詔勅がくださった 民主主義国家への 第一歩がふみだされた 六・三・三制 教育委員会 学校給食 PTA 新しい教科書 次々と教育のしくみがかわった 校庭は整地され 運動用具も次々にそろった 児童会 部活動 クラブ</p>
<p>一つ一つの歴史の輪をひろげ 世のため 人のため 新しい時代を築いた 八千人の卒業生 今 ぼくたちは わたしたちは その足跡を ふりかえってみよう</p>	<p>激動の昭和は始まる ピーポー馬車が汽車にかわった 木原線の開通 昭和五年四月 わたしたちの先輩は 手に手に日の丸の旗をもち お祝いの会場に集まり 開通を心から祝った</p>	<p>あいまわしい戦争 世界の強国を相手に 苦しい戦いへの第一歩を ふみだした 食糧の不足 とぼしい学用品 勤労奉仕 出征兵士の見送り 空襲</p>
<p>先生三名 児童二〇〇名 桜台神宮寺を仮校舎として 開校された 大多喜小学校 着物姿に ふろしき包み 読み 書き</p>	<p>大多喜小学校 創立された</p>	<p>自主的な活動がさかんになった 待ちのぞんだプールの完成 ぎらぎらがやく太陽 まっ黒に日やけた ぼくたち わたしたちの</p>

水泳が始まった  
 それは三十六年八月  
 水泳王国  
 水の王者大多喜小の  
 第一歩がしるされた  
 私たちの学校の象徴  
 校歌

♪ 校歌一番

日本を代表する  
 西条八十作詞  
 古閑裕而作曲による  
 校歌は四十年十二月  
 P T A の努力によってうまれた

交通戦争  
 大多喜町にもやってきた  
 交通事故の犠牲者をなくそう  
 これを合言葉に  
 交通公園ができあがった

百年の歴史は重く  
 一つ一つに血が通い  
 一つ一つに心がこもり  
 このすばらしい伝統と  
 より高い誇りを築きあげた  
 この伝統を  
 ぼくたち  
 わたしたちの心として  
 百年目の一九七四年  
 健齒児童の郡代表  
 ソフトボール  
 ポートボールの地区優勝  
 水泳の郡総合優勝  
 体操  
 陸上  
 音楽クラブの発表  
 図工展

席書展に  
 立派な成績をあげた。  
 学校花壇コンクール  
 緑化推進運動  
 花いっぱいコンクール  
 交通安全全国表彰  
 数々の荣誉にかがやいた  
 大多喜小学校  
 伝統と誇りを  
 あますところなく発揮した  
 大多喜小学校  
 この業績は  
 ぼくたちの  
 わたしたちの力だけでなく  
 八千人の卒業生  
 町長さん  
 町の方々  
 おとうさん  
 おかあさん  
 先生方  
 みんなの力の結晶  
 みんなの力の総合

昭和五十年二月十一日  
 この栄えある式典を  
 心から祝おう  
 おめでとう百周年  
 おめでとう百周年記念  
 おめでとう大多喜小学校

♪ 校歌三番

※この原稿は、西小学校 小高正広校長先生が  
 大切に保管されていた、当時のわら半紙刷り  
 の原稿を基に作成しました。  
 一部、数字や漢字の表記を修正しています。